



わだち

## 広報誌 第17号

(2016.4.1)

〒982-0845

宮城県仙台市太白区門前町2-1

電話 022(746)8461 FAX 022(746)8462

<http://www.13.plala.or.jp/miyagi-kendo/>

# 宮城県剣道連盟

第10回 宮城県少年剣道講習会  
(平成27年12月23日(祝) 会場 名取市民体育館)



## 目次

|                      |     |                         |     |
|----------------------|-----|-------------------------|-----|
| 会長・理事長ご挨拶 .....      | P 2 | 高体連 .....               | P13 |
| 第10回宮城県少年剣道講習会 ..... | P 3 | 少年剣士東京大学剣道部に文武を学ぶ ..... | P14 |
| 杖道部会 .....           | P 9 | 平成27年度専門委員会活動報告 .....   | P16 |
| 居合道部会 .....          | P10 | 北から南から .....            | P18 |
| 中体連 .....            | P12 |                         |     |

# ご挨拶



宮城県剣道連盟会長 小澤 仁通

恒例の漢字一文字による今年の世相は「安」と発表された。人々の安全・安心に対する関心の高さを物語っております。

さて、宮城県剣道連盟の一年を振り返ってみますと、執行部が中心となり、各専門委員と連携を密にしなが、連盟の諸事業に対して万全の組織運営がなされたものと考えております。

私は、常々、連盟の発展と充実、各種専門委員会が理事長の諮問に応えて積極的な活動や答申を出して頂くこと。さらに、各種専門委員会の活動が横断的に行なわれることが連盟の発展と充実につながるものと考え、委員会の設置や活性化に努力して参りました。

近年、専門委員会活動を考察したとき、各専門委員長さん方を中心に、各種専門委員会が一つになって大きな成果を生み出してあります。これを高く評価するものであります。

東日本インターハイが二年後仙台

で開催されます。今年は、インターハイで小牛田農林高校の女子がベスト八。秋の国体では、少年男女が揃って出場し、男子は五位入賞を果すなど久々の活躍であり、強化の成果が出た年であったと思っております。

県武道館主催で実施されました、十一月の審判研修会は、大変充実した二日間でありました。中田・大嶽両講師による指導は、的確であり今日的課題を踏まえた素晴らしい指導内容でありました。昇級審査員中心の受講者にとっても大変有意義な研修会であり、今後の指導に大いに生かされるものと思えます。

しかし、今後を展望したとき、山積する問題も多く、諸課題に対して一歩一歩着実な対応が求められております。

今後とも各市郡連盟を始め皆さんのご理解とご協力のもと、宮城県剣道連盟として一丸となつて取組んで参りたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

## ご挨拶



宮城県剣道連盟理事長 井上 雅勝

日ごろより、本連盟の活動にご理解とご支援を賜り衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、平成二十七年度は、本連盟にとりまして、将来に向けての大きな礎を築くことができた一年間となりました。本年度の方針「剣道に自信と誇りを持つる剣道宮城の創造と構築」に基づき「3S」(トリプルエス)のSTRONG(強い)・STEADY(安定)・STAFF(人材)を目標に活動してまいりました。皆様方のこれまでの熱心な取り組みにより、お陰様で滞りなく事業を遂行でき、ほぼ満足できる成果が達成できつつあります。

特筆すべきは、新たな「段位審査料」体系により、県内の審査会が円滑に実施できていることです。中央審査会(六・七・八段)も滞りなく運営でき、昇段者を多数輩出したしました。さらに十月に和歌山県那

智勝浦市で開催された第七十回国民体育大会においては、少年男子が久々に第五位に入賞し、平成二十九年に地元で開催されるインターハイで十分活躍できる力を身につけています。このように一歩一歩ではあります。将来の発展につながるような着実な成果が現れております。しかしながら、事務局体制の整備や事業の効率的な運営面などについては、いくつかの課題を残しています。

今後、本年度の運営状況等を検証しながら改善に努め、さらなる発展につながるように進じてまいります。

会員の皆様におかれましては、連盟の活動にこれまで以上に参加いただきつつ、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。ご挨拶に代えさせていただきます。

# 世界選手権で二冠達成の 佐久間陽子先生少年剣士を指導



## 第10回 宮城県少年剣道講習会

日時:平成27年12月23日(祝) / 場所:名取市民体育館

小学五・六年生を対象とした第十回少年剣道講習会が、平成二十七年十二月二十三日(祝)、名取市民体育館で開催されました。宮城県内各地の少年剣道五十二団体から二百五十二名の子どもたちが参加しました。

今年度の講師は、平成二十七年五月二十九日から三十一日にかけて日本武道館で開催された第十六回世界剣道選手権大会において女子団体の主将(先鋒)として団体優勝に貢献、個人戦でも個人優勝を勝ち取った佐久間陽子先生です。佐久間先生からは、講習内容に入る前に、小学生時代から現在に至るまでのご自身の体験を踏まえながら、目標を持つことや基本の大切さ、自分に克ち、諦めずに目標達成へ稽古を続けることの必要性など、「何のために剣道をするのか」など子どもたちに問いかけてくださいました。佐久間先生の張りのある元気な声そして親しみのある説明と指導に、少年剣士は真剣に参加していました。

開会の挨拶では、宮城県剣道連盟副会長の田所清三先生より、「心に残る楽しい思い出になるよう一生懸命取り組んでほしい。(保護者の

方々へ)心身を鍛え立派な社会人として世の中で役立つ人間になるよう剣道の話が中心になるような家庭作りをしてほしい。」との激励やご指導をいただきました。閉会の挨拶では、同副会長の千葉克彦先生より、「継続は力。今日二日で習得は困難。帰ったら反復して努力すること。世界一の先生から教えていただいたことを自分の身に置き換えて頑張ってほしい。」との激励の言葉をいただきました。



## 一 開会式

## (一) 開会の挨拶

宮城県剣道連盟副会長

田所清三先生

## (二) 講師紹介

幼少年普及委員長

千葉弘勝先生

## (三) 受講生代表「歓迎の言葉」

尚武殿一森山道場

渡会剛生君

## 二 講師指導による基本錬成

## (一) 午前の部講習会 (十時～十二時)

出会いを大切に。私がこれまで、何を目指して剣道をしてきたのかについて皆さんにお話したり質問をしたりするが、「自分はどうかだろうか？」と頭を使つて聞いてほしい。○目標を持つとう

剣道好きな人？どういふところが

## 講師紹介

## 佐久間 陽子先生



1985年まれ 旧伊達町出身

伊達東小－伊達中－左沢高－筑波大－山形県教員

小学1年で剣道を始め、翌年本市にある

名門道場「恵迪館(けいてきかん)」に入門。

高校からは強豪・山形県立左沢高校に進学。

筑波大学時代には2006、2007年の全日本学生選手権を2連覇。

## ★主な戦績

小学生／全国大会団体3位、個人ベスト8

中学生／全国大会団体ベスト8、個人3位

高校生／全国大会団体2位、個人ベスト8

大学生／全国大会個人優勝(2回)

社会人／全国教職員大会個人優勝、2位、  
世界大会団体優勝(3回)、個人優勝

好きですか。私は剣道が好きです。それは言葉がなくとも相手の心を

読み、自分の技が決まるのが楽しかったからです。只面を打つのはこれから勝てなくなる。スポーツ全般がそうだが、頭を使うこと。「会場内の講習参加者へ」今のあなたの目標は？」「(参加者の一人が)全国大会で勝ちたいです。」日本一を目指すには具体的にどうしたらいいのか？健康のために剣道をしている人もいると思う。自分は何を目標に剣道をやっているのか考えてほしい。目標を言えるようにしてほしい。

## ○剣道を始めたいきっかけ

私は、福島県の恵迪館出身。小一の時、伊達市の山崎道場で剣道を始めましたが、引越して、小二の二学期から恵迪館へ。剣道を始めたいきっかけは、二つ年上の兄が剣道

を始めたから自分も始めた。両親は(剣道を)していない。

## ○基本をおろそかにしない／

やりたくない気持ち乗り越える  
始めた時に何をしましたか？はじめから防具を着けられましたか？竹刀を振ることから始めましたよね？基本をおろそかにしない。初心に戻る。山崎道場で基本をみっちり館長から学んだ。恵迪館時代は、毎朝五時二十五分頃、車で地区の子どもを迎えに来てくれ練習した。休みたいな〜という時はあったが、先生との出会いの陰で休むことはなかった。やりたくない気持ちを乗り越えることが大事。やらされる部分はあってもよいのではないかと思うが、先生方に「もっとやってください。」と言ってください。

|           | 練習内容  | ○練習上の注意事項  |
|-----------|---|--|
| 素振り       | ①前進後退：正面打ち<br>※20本  | ○一本一本打ち切る。<br>○自分と同じ身長の人を想定し、自分の目線で振り下ろす。<br>※本当は肩くらいまで振り下ろしてほしいが、今日は目線まで<br>○肩(かた)・肘(ひじ)・手首(てくび)を使った素振りを行う。<br>○一眼二足三胆四力(いちがんにそくさんたんしりき) 以下※は参考<br>※剣道修行の大事な要素を重要度に応じて示したもの。<br>①眼：相手の思考動作を見破る眼力 ②足：足の踏み方・使い方<br>③胆：動ぜぬ胆力と決断力 ④力：体力ではなく技術の力 |
|           | ②前進後退：左右面打ち<br>※20本   | ○斜め45度で打った軌道(きどう)を通して後方へ<br>○ポイントは前進後退と同じ。   |
|           | ③速素振り<br>※100本  | ○決して跳躍素振りではなく、素振りを速く行う。<br>○ピョンピョンと飛ぶのではなく、速く素振りをする。   |
| 基本打ち      | ①切り返し   | ○構えたら、打つ前に気合いから始めること。<br>○斜め45度で一本一本しっかり打ち切る。<br>○肩・肘・手首を使うこと。<br>○相手が竹刀で受けていても、左右とも相手のメンを打つように意識すること。<br>○もっと声を出すこと。  |
|           | ②一息の切り返し<br>※9本→体当たり<br>→9本   | ○45度の降りは基本的には変えない。<br>○(スピード)誰よりも速く。<br>○メン・コテ・ドウ打ちにつながるようしっかり行うこと。  |
|           | ③大きくメン打ち<br>※3本1セット   | ○打つ前、打った後、絶対に左足が右足を超えないこと。<br>○振りかぶるときに顎(あご)が上がらないようにする。<br>○顎を引いて気合いを入れて行う。   |
|           | ④小さくメン打ち<br>※3本1セット   | ○足を出さずに腰から出る。  |
|           | ⑤表を払ってメン  | ○払うときに足を継(つ)がないこと。   |
|           | ⑥裏から払ってメン   | ○メンを打つ途中に払う動作が入る。  |
|           | ⑦コテメン   | ○コテもメンも両方ともしっかり打つ。コテも一本、メンも一本にする。<br>○コテの後、足を引きつけてメンを打つ。<br>○徐々にスピードアップして行う。   |
|           | ⑧コテ打ち   | ○コテ→体当たり→構えて残心<br>○メンと同じ打突。高さが違うだけ。  |
|           | ⑨コテ→体当たり<br>→引き面  |  |
|           | ⑩追い込み面  | ※ステージ前からステージ後方に、1グループ10人程度で複数の列を作る。<br>※各列ごとにステージ側の受講生から1人ずつ連続してメンを打突する。<br>○打たせる方は、メンを打たせたら相手(掛かり手)にぶつからないように体をさばく。   |
|           | ⑪面→体当たり<br>→引き面<br>※1人5回  | ○1セット終了後、「よくできた」と手を挙げる者がいなかったため、改善して<br>もう1度行った。<br>○何が足りなかったのか、常日頃から考えて行うこと。  |
| ◆午前練習の最後に | ○面を着けるスピードはやる気の表れである。正しく速く着ける。<br>○面を着けるスピードが遅いと先生にお願いすることができない。<br>○面をとる(はずす)ときは、面紐をまとめ、汗をぬぐうのが相手に見えないようにする。 |  |

|     | 練習内容           | ○練習上の注意事項   |
|-----|----------------|---|
| 応じ技 | ①出ばな面<br>※2本交代 | ○掛かり手が元立ちに対して、前→後→前→後→前→(元立ちが前に出る瞬間)メン<br>※「前」・・・掛かり手が前に攻めた分、元立ちは後ろに下がる。<br>「後」・・・掛かり手が元立ちから攻められた分、掛かり手は後ろに下がる。 |
|     | ②相小手一面         | ○相手がコテに来たくなるように誘いながら、相手がコテに来たところを、相小手一面で決める。理想は、結果的に相小手一面になっていた状態である。   |
|     | ③小手すりあげ面       | ○相手にコテを打たせないようにすりあげてメンを打つ。<br>○すりあげが「払い」にならないようにすること。   |
|     | ④引き面<br>※2本交代  | ○引き技は打突力(肩・肘・手首)がないと一本にならない。<br>○打たれた方が「いたい」と感じるような打ち方をすること。<br>○声を大きく、打突を速く。<br>○どのようにしたらメンが決まるか考えて練習する。       |

○諦めず目標に向かって稽古を続けること

日本一を目指し始めたのは小学校五、六年生のころ。全国のレベルが分からずにやっていた。小学六年生の時、道場連盟の県大会でベスト八で負けた。「悔しい」と思った。負けた時にどういう気持ちになるか。「悔しい」にも段階がある。次の試合にどういう気持ちで臨(のぞ)むかが大事。日本一達成は(それから)約十年後。大学生の時に日本一になった。諦めずに目標に向かって続けることが大切。諦めてしまえば日本一はなかった。目標を持ち続けて剣道を続けてほしい。生涯、剣道を、指導者としてでもよいので続けてほしい。君たちの後輩や子どもにも剣道の楽しさを伝えてほしい。

○大会当日までにどのような準備をしたかが大切

(世界大会に)行った人?見に行っただ人?三年に一度開催される。三年前はイタリア、その前はブラジル。ブラジルから三大大会連続で出場した。候補選手から削られ十名が選ばれる。世界大会優勝よりも十人に選ばれることの方が大変。トップ選手の集まりなので皆チョー強い。

強い人とやりたいと思ったら自分も強くなる稽古をすること。強い人と稽古をすること。日本での大会で私は女子のキャプテンをやった。

今までの世界大会だと他国は騒々(そうぞう)しい。ブブセラッって知ってる?イタリアでは拍手ではなく足踏(ぶ)みになっていた。日本とは違う雰囲気。日本人選手が出場すると大きな拍手がある。応援してくれているプレッシャーもかかるが、準備をして大会臨んだので落ち着いた気持ちで臨むことができた。(サッカーの)本田圭佑も「準備が大切」と言っている。大会当日がなんぼるのは当たり前。それまでにどのような準備をしたかが大切。改めて今大会(世界大会)でそのことを感じた。(左沢)高校でも「この道場でやったことが外に出る。この道場でやっていないことは外では出せない。」と言っている。

○キーワードを聞き逃さない

これから練習をするが、キーワードをよく聞いてほしい。普段の先生と言いが違うことがあるかもしれないが、まずやってみてほしい。常日頃の先生の指導が根本。私の指導はアドバイス。こういうやり方もありますよ、ということ。

○着装(ちやくそう)をきちんと

「胴、垂れ、竹刀を持って集合」  
誰が一番遅いかな。左座右起で。着装について、隣りの人と綺麗(きれい)に着られているか見て。「オレの着け方どう？」と隣りの人と話してみよう。垂れを綺麗に着けてください。ぐにゃつとならないように腰板にあてる。締めすぎて気持ち悪くならないように。隣りの人と確認してください。垂れが上にいかないように。前の方を少し下げると格好良くなるよ。胴は、自分達の着け方で、高さは上げすぎず下げすぎずグッドな状態にしてください。胴ひもは縦結びにならないように。縦結びはとれやすくなってしまう。道着は背中がピンとなっていないか後ろの人と確認してください。立ち膝で胴の高さを確認。起立！袴(はかま)は前下がり。袴をつま先で踏んでピツとしてください。何でも形は大事。形から入りましょう。渡会君中心に両手間隔(かんかく)で。竹刀を持つ時は膝(ひざ)をついてとること。竹刀を持って立つ。前後左右両手間隔。

◆準備運動後の基本稽古(素振り、基本打ち)・・・別ページ「練習内容」参照。

(一)午後部の講習会

(十三時～十五時二十分)

①応じ技・・・別ページ「練習内容」参照。

②指導稽古(佐久間陽子先生他約四十名の先生方が元立ち)



●指導者補助協力者の先生方を交え、一回二十秒を四十分実施

●面を着けるのが速い者から順に三十名が佐久間先生に打ち込みを行う。

●佐久間先生の指導稽古は、一人一人と躰踞(そんきよ)をしてから開始。初太刀を許さず、コテ・メン・ドウ万遍なく、相手に合わせて「打つ・打たせる」バランス良く、時には悪い癖(くせ)を指摘。打突(だつ)後には油断している者はメンをいただく。相手に応

じたやり取りは、まるで剣道で対話をしているようであった。先

(せん)をとってメン、引きコテ、相コテ・メンなど、肩の力を抜いたためらかな打突で指導されていた。受講生の中には、打突後に倒れた状態で(軽く)打たれた者や、竹刀を飛ばされた者など、ラポートを大切にされていた。



三 閉会式

(一) 講師講評(佐久間陽子先生)  
今日はありがとうございました。

(稽古では) ちょっとやられそうになった場面もあったが頑張りました。残念なのは女子があまり来なかったこと。自分が強くなるために、積極的に、面着けも速く。また、機会があればまた会いたい。私は左沢高校にいますので、いつでも出稽古に来てください。

(二) 受講生代表のお礼の言葉

岩沼西少年剣道錬成会

近野侘奈さん

(三) 閉会の挨拶

宮城県剣道連盟副会長

千葉克彦先生

稽古を終えた少年剣士からは、「楽しかった」「強いなあ」「スピードがあった」「最後まで集中力が切れない。すごい。」「いつもの稽古と違って、先生が本気でやってくれたので、楽しかった。うれしかった。」など、たくさん感動した言葉が歯切れ良く返ってきた。佐久間先生から頂いたたくさんのご指導を、しっかりと胸に身体に刻み、これからの稽古に生かして、それぞれが目指す剣道の道が拓け、大きく羽ばたくことを期待している。



# 佐久間 陽子先生に 質問コーナー

## Question and Answer



### ◆少年少女剣士より

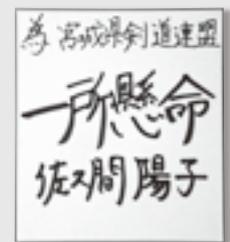
- Q** ①小学校の時に好きな科目は？ ②好きな食べ物は？  
**A** ①体育 ②お寿司(すし)
- Q** いつからがんばるようになったのか？  
**A** ずっと一生懸命やっていたが、小学校5～6年生の時に日本一になりたいと考えるようになった。
- Q** 小学校のころ、1日に素振りは何回？  
**A** 平均値だとそんなにしていなかった。日本一を目指している人は1日1000本くらい振ってほしい。
- Q** 練習は週に何日か？  
**A** (左沢高校での)部活動で毎日やっている。
- Q** 今までに苦しいと思ったことは？  
**A** 大学生の時に自分のせいで団体戦で負け、その後の稽古が死ぬほど辛かった。

### ◆広報委員より

- Q** 座右の銘や好きな言葉などはありますか？  
**A** 印象に残っている言葉があります。「失敗は次につながる。失敗は挫折でも汚点でもない。諦めない自分がある限り挽回のチャンスは必ず訪れる。」
- Q** 勝ち続けるための方法は？  
**A** 準備が大切。準備をしっかりやればできる。
- Q** 剣道を続けてこられた要因は？  
**A** 諦めずに目標に向かっていくこと。日本一になる目標を持って10年後に達成した。
- Q** 剣道の魅力は何でしょうか？  
**A** 言葉がなくても相手がどう考えているか、ビンゴしてできるととても嬉しくなる。

- Q** 今まで出た試合で一番思い出になった試合は？  
**A** 嬉しいより悔(くや)しい思い出。高3のインターハイ(全国大会)でベスト8で終わった試合。
- Q** 今まで勝って嬉しかった試合は？  
**A** 勝った試合は何でも。大学4年生の時の個人戦で優勝したとき。2連覇がかかっていたので、ほっとした安堵(あんど)の気持ち。世界大会でもほっとした気持ち。
- Q** 憧(あこが)れの選手は？  
**A** 宮本武蔵。宮本武蔵はやられる前にやる。打た(切ら)れる前に打つ(切る)。
- Q** 剣道女子で良かったことは？  
**A** 男も女も関係ない。男子に負けないでやってやるその意気込みで稽古している。女子だったから嫌だったことはない。
- Q** 剣道生活で良かったことは？  
**A** 小・中・高・大、その都度(つど)仲間と出会えたこと。今でも連絡をとっている。

- Q** 得意技は何ですか？  
**A** 飛び込み面。
- Q** 宮城県少年剣士へメッセージをお願いします。  
**A** 目標を持って諦めずに剣道を続けてほしい。頭(脳みそ)を使うこと。準備が大事。一番いい構えを意識してほしい。(アドバイス頂いたら)常に自分としてはどうしたらよいか考えて稽古をして下さい。



佐久間 陽子先生 書

# 杖道部会



## 第四十二回全日本杖道大会の試合結果について

さる十月十一日に兵庫県神戸市、神戸市立中央体育館において開催

されました。この大会は神戸の大震災から二十年の歳月をかけ復興した地であり、ご当地では初めての杖道大会でした。

国際港として異国情緒かおるこの地に全国各地から選手二百十四組（太刀と杖との形を行いますので）四百二十八名、伝統武道等行なう個人演武など老若男女夫婦が集まりました。

本県からは選手として八組十六名、個人演武に四名、審判役員二名が参加して居ります。



試合結果は次の通りです。

### 四段の部

佐々木浩史・神鷹良組 第三位

鈴木宏明・高橋清一組 準優勝

### 六段の部

村上宜央・狐塚理沙組 第三位

### 審判役員

教士八段庄司敬一先生

教士八段村上直隆先生

以上の結果ですが、これも県剣連諸先生方のご理解とご協力の賜物と存じます、誠にありがとうございますございました。

今後とも杖道の普及、発展につきましても県剣連諸先生方のご理解とご協力お願い申し上げ報告致します。



# 居合道部会



## 第四十五回 東北居合道大会を終えて

宮城県剣道連盟居合道部会 本郷 直喜

天高く気清く腕張り肉踊る季節  
九月二十日宮城県剣道連盟 主  
管による第四十五回東北居合道大  
会を名取市民体育館において開催  
しました。

一年前より準備を開始、前年度  
会開催岩手県からの引継事項等を  
参考に進めて参りました。

仙台市内の会場がとれず、名取  
市剣道連盟会長で市民体育館長洞  
口周士先生のお手配によって、会  
場が確保できました。また開会前  
回の会場設営には名取市剣道連盟  
の行事の中ご協力をいただきまし  
たこと心より感謝とお礼を申し上  
げます。

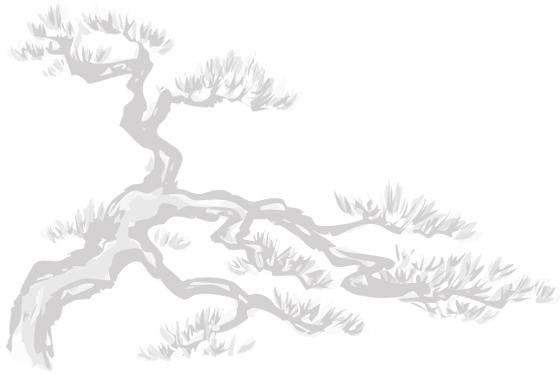
会場に東北六県の選手団、個人  
演武者多数の参加ならびに大会関  
係者を迎えての大会でありました。

開会にあたり、小澤仁邇大会会  
長より東北各県の選手ならびに役  
員の皆さんに観迎の言葉とともに、  
大震災が四年半が過ぎ一日も早い  
復興が望まれるなか、伝統文化で  
ある居合道の真髄として、多くの

皆さんに感動や元気を与えるよう  
な大会となることを願っているとの  
あいさつでした。

来賓の名取市長佐々木一十郎様  
より夢想神伝流十八代宗家 居合  
道範士九段 壇崎友彰先生の顕彰  
碑のある市民体育館での開催は大  
変喜ばしく、皆様のご健闘を祈  
るとの祝辞をいただきました。

引続き、居合道教士八段 佐々  
木幹彦審判長説辞の後、宮城県代  
表錬士七段 古川昭夫選手の力強  
い宣誓があり、審判長の合図で試  
合を開始、各選手は並々ならぬ心  
構えと自負を持ち激しい稽古を積  
んだ選手ばかり、立ち居振る舞い  
は独特の美しき、気剣体一致と随所  
に全身全霊をかけた技前を駆使、  
実力まったたく伯仲の接戦が展開さ  
れ、審判員の毅然とした姿、主審  
の凛とした判定の声とともに機敏に  
表示された紅白の審判旗が天を指  
す、会場からため息がもれる。「静」  
と「動」を交えた刀捌き緊伯した  
熱戦に観衆が息をのむ光景でした。



宮城選手各位準優勝



大会会長あいさつ



判定光景

宮城県勢は七月二十六日 第四十回宮城県居合道大会で選考された選手は、全国大会に参加経験豊かな赤塔 徹教士七段を監督とし、例年になく暑い中八月二日強化稽古会等を経て更に稽古を重ね、大会には実力を出し切り、結果を出す意気込みの仕上がりで臨みました。

試合成績については、佐々木幹彦 教士八段の寸評を掲載いたします。

四段 佐々間勝之・渡邊王志は、気剣体が微妙に決まらずに、青森・福島に敗れたものの両選手の太刀の冴えに将来に期待したい。

五段 瀬川竜一郎は、乗上(青森)に勝ちを得たものの力を出し切れず無念のリーグ敗退、一方 実力派松本満智子は正確な居合が持ち味、決勝まで進んだが二対一の頻差で、準優勝、丁寧な技前、稽古を充分積まれた演武は観戦する人に感動を与えてくれました。

六段 地元の意地を見せた勝負、佐藤将傑 加藤俊秀の両選手は健闘したもの、前年度全国大会六段の覇者 塩見(福島)の鋭い技の前に涙を呑み、佐藤将傑は準優勝となった。

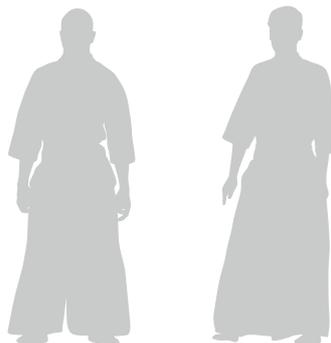
東北トップの実力者が競う七段

古川昭夫は常連の小池(青森)に三対〇と勝ちを得たが、力量未だ衰えない鈴木 享(山形)が、リーグより決勝に進んだ。

結果、前年度全国大会制覇 福島の実力の前に、宮城は総合準優勝となりました。

この大会の意義・貴重な体験を将来宮城県居合道発展の為に活かすべく、部会員の修行に役だつ実のある大会となり、更なる飛躍をお誓いいたします。

本大会を盛会裡に終えることができましたことは、部会員の協力と宮城県剣道連盟のご助言、ご支援をいただいたお陰であります。心より厚くお礼を申し上げます。





All Japan Junior High School Athletic Federation

# 宮城県中学校剣道大会 「女子個人優勝」



塩電市立第一中学校 相沢 杏佳 選手

「良いこと貯金」この言葉を一中剣道部では大切にし、行動に移してきました。「良いこと貯金」とは、例えば「トイレのスリッパをそろえる」「落ちているゴミを拾う」など、人のためになる良い行動を日々積み重ねていくことです。

試合になると、それまでの努力と精神力の他に、その時の組み合わせ、審判、ひらめきなど「運」が大切になってきます。私は、この「運」を上げるため、良いことをするのだと思っていました。ですが、「良いこと貯金」を続けていたある日、ふと気づきました。「良いことをする」ということは、自分自身の精神的な成長につながっているということ。私は、自分のことだけではなく、周囲の人のことを考えて行動する大切さを、知らず知らずのうちに学んでいたのです。「強くなりたい」「勝ちたい」と思って稽古に励んできた私ですが、その想いは、剣道の技術を向上させると同時に、精神的な面でも自分自身を大きく成長させてくれたと感じています。そうして迎えた県大会当日。多くの方々からのたくさんの「頑張れ」をいただき、とても勇気づけられました。このたくさんの応援と、県大会に出場できる喜びを胸に、一回戦から気合いの入った試合をすることができました。決勝戦では、良い緊張感の中試合に臨み、冷静に一本とることができたのです。優勝が決まった瞬間、今まで支えてくれた先生方、道場の仲間、保護者の方々への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

私は、これからも剣道を続け、日本一を目指して頑張ります。そして、「良いこと貯金」を続け、剣道を通して価値のある人間になりたいです。



## 「日本一を目指して」



宮城県小牛田農林高等学校 佐々木 菜奈 選手

私は、高校3年間日本一を目標に毎日の稽古に励んできました。

先輩方が抜け、新チームとなった県新人大会では3位という結果に終わり、もう後がなくなった私たちは、インターハイへの切符を掴むため毎日の稽古で技術を高め、遠征先では高めた技術の成果を実践し、数多くの練習試合を繰り返してきました。また、日頃の稽古ではただ数をこなすのではなく、常に自分のやるべきことは何かを考え、自分の得意な場面を多く作るなど具体的な目標をしっかりと頭に入れながら取り組みました。そして3年生のこの夏、男女揃ってのインターハイ出場を果たすことができました。

インターハイでは、日本一に挑戦するとともに小牛田農林として出場できる最後の大会だったので、自分たちらしい試合ができるよう心掛けました。結果は予選リーグを通過し、準々決勝で桐蔭学園(神奈川県)に0対4で負けてしまい、結果ベスト8でした。大会当日は、インターハイの大舞台上で普段の自分の剣道が出せないのではないかと不安もありましたが、全く緊張もせずに試合を楽しむことができました。結果は大差で敗退し日本一になることはできませんでしたが、最後まで一人ひとりが諦めることなく小牛田農林らしい攻めの剣道を貫き通せたことで達成感と充実感を味わうことができました。

私はこれからも剣道を続けていきますが、高校3年間で学んだ強く正しい剣道をさらに追求し、今後も日本一を目標に日々精進していきたいと思えます。

最後になりますが、これまでご指導して頂いた先生方や先輩方、一緒に戦ってきた仲間、そしていつも応援し支えて下さった保護者の方々に深く感謝しています。ありがとうございました。

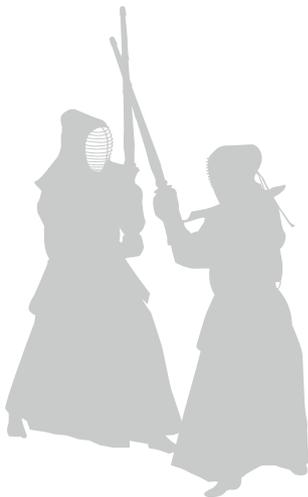


# 少年剣士東京大学剣道部に 文武を学ぶ



残暑厳しい8月末、東京大学剣道部約60名の皆さんが仙台にて合宿を行いました。そこで、宮城県剣道連盟では東日本大震災で被災を受けた沿岸部の少年剣士4年生から6年生を100名募り、8月22日に剣道指導をいただく機会を設定しました。

東京大学剣道部顧問佐藤勝信師範を始め剣道部員の皆さんによる実技指導では、基本をしっかりと教えていただきました。午後にはグループ毎に分かれ、体験談や勉強の仕方などを教えていただくミーティングがあり、子ども達は文武両道を学び充実した一日となりました。



# 「東京大学剣道部少年剣道講習」に参加して

湯殿山剣道スポーツ少年団

千葉 乗司

ぼくは、八月二十二日に宮城県武道館に行き、東京大学剣道部少年講習に参加しました。

どのようなことをしたかというのと、最初に、東京大学剣道部顧問の佐藤先生をはじめ東京大学剣道部のみなさんが、実技指導をしてくれました。ぼくは面などを打ったとき手が伸びていなかったため、「うでを伸ばすといいよ。」と指導を受けました。これからの稽古は、打ったとき、うでを伸ばして、打つように意識をして練習をしていきたいと思えます。

午後からは、各班に分かれて学習指導がありました。大学生活のことや、勉強の仕方を教えてもらいました。勉強は、教科書の内容を覚えることが大事と教えてもらい、剣道と似ているなと思いました。剣道も基本をしつかりと覚えることが大切なので、勉強と剣道を文武両道としてがんばりたいです。

山元剣道スポーツ少年団

佐山 華

わたしは、いつもやっているけいこよりも、き本をキッチリできてよかったです。とくに、すぶりで寺地先生のびゅん、びゅんとならしていたのが印象にのこりました。わたしの父もすごいなと思っていました。勉強では、東大生に直接質問することができました。どのように勉強しているか、なるのにむずかしいと思うしよく業はなになどいろいろ聞いてよかったです。けいこも勉強が終わって、佐藤先生に、『忠恕』という言葉を書いてもらいました。何と読むのかもわかりませんでした。なので、お母さんに、調べてもらいました。そして教えてもらいました。『忠恕』とは、自分の良心に忠実である他人に対する思いやりが深いことだと。勉強もけいこも、行ってよかったです。



東京大学運動会剣道部

山川 弥佳

東北の小学生・高校生との稽古及び講習会は、私たち東大剣道部員にとつて、短いながらも非常に実り多いものとなりました。佐藤勝信師範による稽古においては基本を固めることの重要さを再確認するとともに、日頃の稽古への熱心な取り組みを感じさせておりました。今回参加した生徒たちの力強い真つ直ぐな打ちに感動致しました。東大に関心を持っていたきたいという意図で開催致しました講習会は、高校生向けのものだけでなく、小学生向けのものも大変な盛況ぶりでしたので、やり甲斐がありました。特に後者においては、「小学生へのキャリア教育と志教育」をコンセプトとした部員たちの話を受けて、多くの質問や感想が飛び交い、小学生たちのその熱心さには驚かされました。今回参加していただいた東北の少年剣士たちのますますのご活躍を祈りつつ、数年後の中から一人でも多くの方が東大剣道部に入部されることを心から願って、筆を擱かせていただきます。

東京大学運動会剣道部

一年 水島 武大

私達東京大学運動会剣道部は八月二十日から二十六日まで宮城県武道館にて夏合宿を行いました。今回は稽古に加え、新たな試みとして東北の小学生・高校生との交流を通じた復興支援・新歓活動もしました。高校生とは東大剣道部OBで予備校講師の藤井先生による剣道と東大受験とを関連付けた興味深い講演の後、受験期の勉強法や勉強と部活の両立などについて部員の経験談を交えて談笑し、交流を深めました。自らの将来に明確なビジョンを持った皆さんはとも輝いて見えました。翌日には佐藤勝信師範による御指導のもと、部員との稽古に参加して頂きましたが、高校生らしい躍動感溢れる剣道に圧倒されました。希望に満ち溢れた東北の小学生・高校生との交流は私達にとつて大きなよい刺激となりました。参加して頂いた皆さんに一人でも多く東大剣道部に興味を持って頂けたなら幸いです。今回の貴重な経験を今後の剣道人生にも活かしていきたいと思えます。

# 平成27年度 専門委員会活動報告



## 総務委員会

総務委員長

三浦 昭夫

総務委員長 三浦 昭夫  
総務副委員長 鈴木 浩文  
総務委員 江俣 和代／粟木 一博  
奥寺 良

平素より総務専門委員会に御指導と御協力を頂き厚く御礼申し上げます。

今年度は総務専門委員を経験した4名の他に新たに若い委員が1名加わり5人体制で活動しております。

今年度の活動としましては、社会状況の変化に対応できる持続可能な組織運営の整備と管理強化の提言を行うことを目的としています。具体的には現行の規則、規程の問題点をあらわし、項目を絞り、現状に沿った規則の集約・見直しと個人情報保護規程、感染症対

応マニュアルなど新設規則の検討を行っております。特に、旅費規程の見直しは、現在本連盟の事業運営にかかわる部分ですので検討案を提示し慎重に進めております。

長期的安定した財政基盤を確保し、各会員様が充実した活発な活動ができますよう、具体的な提言を行い実現に向けて本連盟に寄与いたす所存ですので、今後ともよろしく御指導御支援をお願い致します。



## 広報情報委員会

広報情報委員長

保志 綾子

広報情報委員長 保志 綾子  
広報情報副委員長 下田 仁  
広報情報委員 福田 光一／宮崎 敏明  
鈴木 歩／酒井 智紀  
佐藤 恵

昨年度まで広報委員会として情報処理委員会とそれぞれ活動しておりましたが、今年度二つの委員会が一つとなり、広報情報委員会として新たに運営活動することとなりました。

本委員会の主な活動は、宮城県剣道連盟ホームページの管理、そして本広報誌「轍」の作成・発行です。

まず、宮城県剣道連盟ホームページ掲載につきましては、最新の情報発信に努めており、正確迅速にと心かけ、各種大会結果について2週間以内には更新しようと担当委員努力しております。また中体連・高体連のホームページにつきましても、担当委員が日々更新に努めております。個人情報などにかかる危機管理体制が課題となり、対策の強化を進めて参ります。

次に、広報誌「轍」につきましては、剣道連盟主催稽古会・昇段審査会・各種大会掲載した号の発

行があります。そして、小学・中学・高校・一般の試合及び催し物で活躍された剣士の紹介、杖道・居合道での活躍された情報等、広く宮城県武道の一年間を振り返り、活躍を掲載する号の発行があります。昨年度より、「北から南から」のコーナーを新設し、地域で活躍されている方々や催しなど、剣道を愛する人々を広く紹介しております。宮城県の各地域を紹介して情報を共有し、武道の道を歩まれる方々への励みとなるようなコーナーを目指しております。多くの方々が「轍」の発刊を待ち遠しく思える、内容豊富な掲載を目指して参りたいと思いますので、御意見御要望がございましたら本委員もしくは剣連事務局まで遠慮なくお知らせください。

最後になりましたが、お忙しいところ原稿執筆を快く引き受けて下さいました先生方並びに剣士の皆様は大変感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



## 事業委員会

事業委員長

三浦 典彦

事業委員長 三浦 典彦  
事業副委員長 布施谷 忠夫  
事業委員 高橋 文博／岩間 克寿  
忍田 紀行／加藤 敬至

### 事業委員会の成すべきこと

平成27年度専門委員会事業委員として6名が委嘱され、これまで各種大会の事業を進めて参りました。当委員会是一言で言いますと「縁の下の力持ち」的存在だと思います。各種大会の目的や対象、御臨席賜ります来賓関係者に対する、準備・進行等における気配りの必要性を強く感じております。

事業(大会)を進めて行く中で、スムーズな大会運営及び事故発生時の適切な初動措置はもちろんですが、最大のポイントは「出場選

手が最大限の力が発揮できる環境作り」と考えます。大事なことは緻密な準備と気配り、経験した反省に工夫を加え、次に生かすことと認識しております。

今後も皆様の御協力の下、より良い事業を展開し剣道の発展に寄与して参りたいと存じますので、今後とも当委員会に対する御指導と御鞭撻のほどよろしくお願い致します。



## 普及委員会

普及委員長  
佐藤 啓

普及委員長 佐藤 啓  
普及副委員長 佐藤 裕一  
普及委員 今野 透/高沢 公也  
鈴木 征也/相原 高志

普及委員会は、県内で行われる段位審査会、稽古会、講習会等の運営に携わり、一般会員の普及に関する活動を行っております。さらに、青少年の剣道人口調査を実施しています。特に剣道人口の減少に関わる問題は、剣道連盟としても重要な課題であり、今後も継続して取り組んでいかなければならないと思っております。その基本的な調査等も本委員会の役割でもあります。

これまで、県内実施の段位審査会、講習会及び月例稽古会の運営を連盟の執行部とともに

携わってきました。今後とも一般会員の皆様のために、更に充実した内容になるよう努力していきたいと思っております。

新体制となり、まだまだ不備点が多いですが、皆様の御指導を賜りながら、剣道愛好家の裾野を広げる活動をしていきたいと思っておりますので、御理解と御協力をお願い申し上げます。



## 強化委員会

強化委員長  
新村 浩志

強化委員長 新村 浩志  
強化副委員長 石橋 力/澤田 裕和  
強化委員 遠藤 稔正/関内 弘樹  
佐藤 充伸/今野 満広  
五十嵐裕子/菅原 恵美  
大山 佳世

平成27年度から強化委員長の命をいただき剣道連盟の先生方をはじめ多くの方々を支えられてなんとか活動して参りました。感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、本委員会の活動内容ですが、年間の事業計画を作成し、予選会で選ばれた本県の代表選手が東北大会及び全国大会で上位入賞出来るよう合宿・遠征の強化練習等を大会の直前まで行い本大会に臨んでいます。今年の夏は暑さが厳しく、その中で選手の皆さんは良く頑張ってくれたと思っています。

今年度の成績ですが、全日本都道府県対抗でベスト16に、全日本女子都道府県対抗では3位の広島県に代表戦で惜敗しました。

東北総体では、少年男女が準優勝の成績を取

り、本国内の出場を決めました。成年女子は3位の成績で全国大会にあと一步及びみせんでしたが、本県は総合で準優勝という成績を収めました。

本国内では少年男子が、久しぶりに5位に入賞しました。強化の成果が少しずつですが出ています。今後も委員の持てる力を発揮して活動していきたいと思っています。

平成29年度は、南東北地区インターハイを控えているので、本連盟としましては強化の対象を高校生にも向けたいと思っています。

年度末になりそろそろ新年度に開催される全国大会の予選会が始まります。選考された選手が全国大会で今年度以上の成績を残せるように今年度も頑張る覚悟でいます。改めて皆様の御指導と御協力をお願いいたします。



## 幼少年普及委員会

幼少年普及委員長  
千葉 弘勝

幼少年普及委員長 千葉 弘勝  
幼少年普及副委員長 佐藤 和彦/瀬戸 信浩  
幼少年普及委員 川口 精一/三浦 憲一  
猪俣 三夫/長南 賢悟  
戸田 孝行/蟹澤 香織

幼少年普及委員会の活動内容は、宮城県の小学生の剣道普及と強化を目的として委員9名で活動しております。

今年度より新体制となり委員の先生方と協力し合い、なんとか事業運営を行っております。

剣道の普及では子供達に夢を与えようということで、宮城県少年剣道講習会を毎年12月に開催し全日本選手権や世界選手権で活躍した選手をお招きして直接御指導いただく機会をつくっております。

今年度は、世界大会で個人、団体の優勝経験のある山形県立左沢高校剣道部顧問の佐久間陽子先生を招きました。佐久間先生から直接指導をいただいた子供達は一生懸命受講し、少しでも身に着けようという目を輝かせていました。世界規模の大会で活躍された先生の肌に直接触れて指導をい

ただいた子供達には、自分も将来はそうなりたいという気持ちで目標を持って、今後の剣道修行に生かして欲しいと思います。

強化の面では、10月末の宮城県学年別個人選手権で上位入賞した四年生以上の学年別、男女別で選出された選手、約60名をジュニア強化指定選手とし、その選手を対象に強化講習会を6月、11月、3月の年に3回実施し、毎年9月に行われる全国都道府県対抗少年剣道大会での上位進出を目指して強化を行っております。

最後に、剣道連盟の先生方をはじめ多くの方々、ご父兄の皆様に、御協力を頂きありがとうございます。

今後とも御指導、御協力を賜りますよう宜しくお願いいたします。



## 生涯剣道普及委員会

生涯剣道普及委員長  
小林 雅樹

生涯剣道普及委員長 小林 雅樹  
生涯剣道普及委員 星 邦光/相澤 榮治  
鈴木 利勝

誌友の皆様「こんにちは」昨年の6月から星邦光先生の後任の委員長に指名されました小林です。よろしくお願致します。

生涯剣道稽古会の始まりは、平成24年10月開催された、全国ねりんピック宮城大会(石巻総合体育館)の開催に伴い、概ね2年位前から強化稽古が月1~2回のペースで始まりました。

しかし、平成23年3月11日、あの東日本大震災により、ねりんピックの剣道競技など沿岸部での開催が予定されていた種目は、中止になってしまいました。

同強化稽古会も中止となりましたが、この間のシニア世代の熱き思いをひき続き実施すべく、

「生涯剣道普及会」へと移行したのです。この稽古会は、毎月1回、泉武道館において、日曜午後3時から同5時の間実施しています。「生涯剣道」という、りっぱな題名を冠してありますので、そのことにふれてみたいと思います。剣道は生涯剣道、生涯修業などといわれていますが、我々の体力には限界があります。しかし、心には限界がありません。心を鍛え、工夫し「勝った…」「負けた…」だけでなく、基本に忠実に一生涯できる、正しい剣道を目指し、さらに健康に留意しつつ、月1度の稽古会に臨んでほしいと願っております。私も生涯剣道の普及発展に寄与したいと思っております。



## 更なる飛躍へのスタート

登米市剣道連盟事務局長 高橋 巖



登米市剣道連盟の前身である登米郡剣道連盟は、昭和28年の設立以来、登米郡団体対抗・個人選手権剣道大会、登米・栗原親善団体対抗・個人選手権剣道大会、登米郡少年剣道錬成大会等の主催事業を実施するとともに、東北・北海道対抗剣道大会を四度、宮城県団体対抗・個人選手権剣道大会を三度、宮城県少年剣道錬成大会を三度主管開催する等、剣道の普及による青少年の健全育成と地域社会の発展に寄与すべく努めてまいりました。

本連盟は、登米郡8町と本吉郡津山町が合併して登米市が誕生した平成17年に組織名を改めたものですが、登米市町対抗・個人選手権剣道大会や登米市少年剣道錬成大会、登米・栗原親善団体対抗・個人選手権剣道大会を引き続いて開催し、宮城県剣道連盟主催の各種大会等へも積極的に参加する等、継続した組織強化の取り組みを進めています。

平成25年8月4日には、本連盟創立60周年記念事業として、小学生から一般までの男女31名編成による東西対抗剣道大会、本市迫町出身で教士八段の佐藤勝信先生を講師とする剣道講習会、そして記念式典を開催し、新たな歴史への歩みを誓い合いました。

しかしながら、少子高齢化が益々進行する昨今社会情勢の中で、特に少年剣道人口の減少が顕著になってきていることから、将来の地域を担う幼少年健全育成のあり方が問われてきているものと強く感じています。

本連盟では、本年度の総会で、少年剣道の健全な普及発展を図る指導体制のあり方等を検証・研究する専門委員会の設置を決定し、現在、若手剣道家を中心とする15名の委員による「幼少年剣道普及検討委員会」として活動を開始しています。

加盟団体と役員・会員一致協力の下、剣道連盟の更なる飛躍を志し、今、スタートを切ったところです。



## 太白区剣道連盟

太白区剣道連盟理事長 佐藤 正雄



本連盟の活動は春季大会で幕を開けます。一般男女の個人戦・団体戦は参加者の年齢は不問で実施されます。60余名が参戦した男子個人戦では激闘が展開され会場は熱気で沸き返りました。小学生個人の部では木村海斗、高橋桃花両選手が各々3年連続優勝を果たしました。小学生の団体戦も行われ、家族の声援の絶えない21回大会となりました。

夏の錬成教室では参加者全員で座禅をくみ、心のあり方を学びました。

21回秋季大会は仙台瑞鳳ライオンズクラブ創立35周年記念大会として実施されました。小・中学生の団体戦、中・高生の個人戦が行われました。先輩達の活躍は小学生には何よりの励みとなりました。

新年を迎え、厳寒の中、250余名が参加し寒稽古が実施されました。鎌田副会長の指導の下、参加者全員で素振り・切返し・掛稽古・試合稽古を行い2時間の稽古を終えました。その後、遠藤会長、鎌田・菅井副会長を中心に一般・高校生の稽古が行われ爽やかな汗を流しました。記念の紅白の餅を手に各自剣道への想いを新たにしたい一日でした。

各種大会に加え、樹徳館では月例の小学生と一般の稽古会がもたらされています。また、女性剣道育成会は定例の稽古や大会での剣道形の演武を行っています。会員の小淵俊江選手は2年連続で全国大会に出場しました。

この20年間で中堅指導者も増え、幼少年の剣道人口も増加に転じました。世代を超えた活動が定着してきています。これも歴代会長・副会長をはじめ指導者の熱意、そして地域の皆様の理解に支えられての成果であることは言を持ちません。しかし、会長から審判法の習熟の必要性など課題も示されており、解決すべき課題は常に絶えません。

末尾ながら、創立22年を迎える当連盟のさらなる発展のため関係各位の益々のご理解・ご支援をお願い申し上げます。



## 柴田郡剣道連盟

柴田郡剣道連盟会長 大宮 金治



平成27年度 段位受審講習会



平成27年度 段位受審講習会

当連盟は戦後のいわゆる剣道解禁を受け、早々に設立されたと聞き及んでおります。今となつては当時の設立に直接携わつた多くの方々が鬼籍に入られ、当時を語られる方は丹羽道博名誉会長をはじめとし、極数名となつてしまわれました。

設立当初から昭和50年代までは、会長として歴代大河原警察署長に就任を願い、事務局長には当時の大河原警察署次長をお願いをしておりました。従いまして、当連盟は川崎町、村田町、大河原町、柴田町の郡内4町の体育協会傘下である各町剣道協会に加え陸上自衛隊船岡駐屯地剣道部及び大河原警察署の4町2団体で構成されておりました。

やがて、警察署内部の組織的対応の変遷に関連して、純粋に民間組織による運営となり、民間の初代会長には川崎町の留守哲山先生、第2代会長には村田町の丹羽道博先生が就任され、私で3代目と言うことになります。

当連盟は過去「宮城県市郡対抗剣道大会」におきまして団体優勝の実績を有し、且つ当連盟所属として宮城県の個人選手権を取得されたこともあり、昭和40年代から平成の初め頃までは少年剣道ブームと相まって大いに剣道機運が盛り上がりました。しかしながら、世波と言うことなのか昨今剣道人口の減少に直面しております。

当連盟の一年の始まりは、かつて「合同鏡開」として郡内剣道人が一堂に会して稽古をし、そして雑煮餅を頂きながら懇親を深めておりました。今は形を変え、段・級証状伝達稽古として実施しております。

6月頃に柴田郡内各町・団体対抗剣道大会(一般男女から子供まで)を開催しています。この大会は各種剣道大会等の予選を兼ねて実施しています。残念ながら近年参加選手が少なくなっています。

11月頃に級位審査会そして段位受審者講習会を実施しています。この講習会を実施してから、合格率が飛躍的にアップしました。

12月には川崎町のB&G会長杯争奪剣道大会があり郡内を問わず近隣市町から多くの参加がありますが、本大会を当剣道連盟として後援しています。

郡内にはかつては少年剣道の錬成団体が8箇所有りましたが、今は4団体となり、且つ1団体当たりの錬成者数も減ってしまいました。その中でも、岩間万治郎・克寿先生親子が主宰する柴田剣友会が着実に会員数を伸ばし成績も向上していることが救いとなっています。また、一般では船岡自衛隊が主軸となって錬成に励んでいます。

剣道の持つ特性が広く理解され、世の人々の人間形成に大いに役立たせるため、剣道に触れる機会を得た一員として、共に剣道の普及に尽力していきたいものです。